

飯伊地域の現状

平成24年2月9日
下伊那地方事務所

飯伊地域の現状 目次

地勢・気象

1 地勢	1
2 気象	2

人口

.....	3
-------	---

産業・雇用

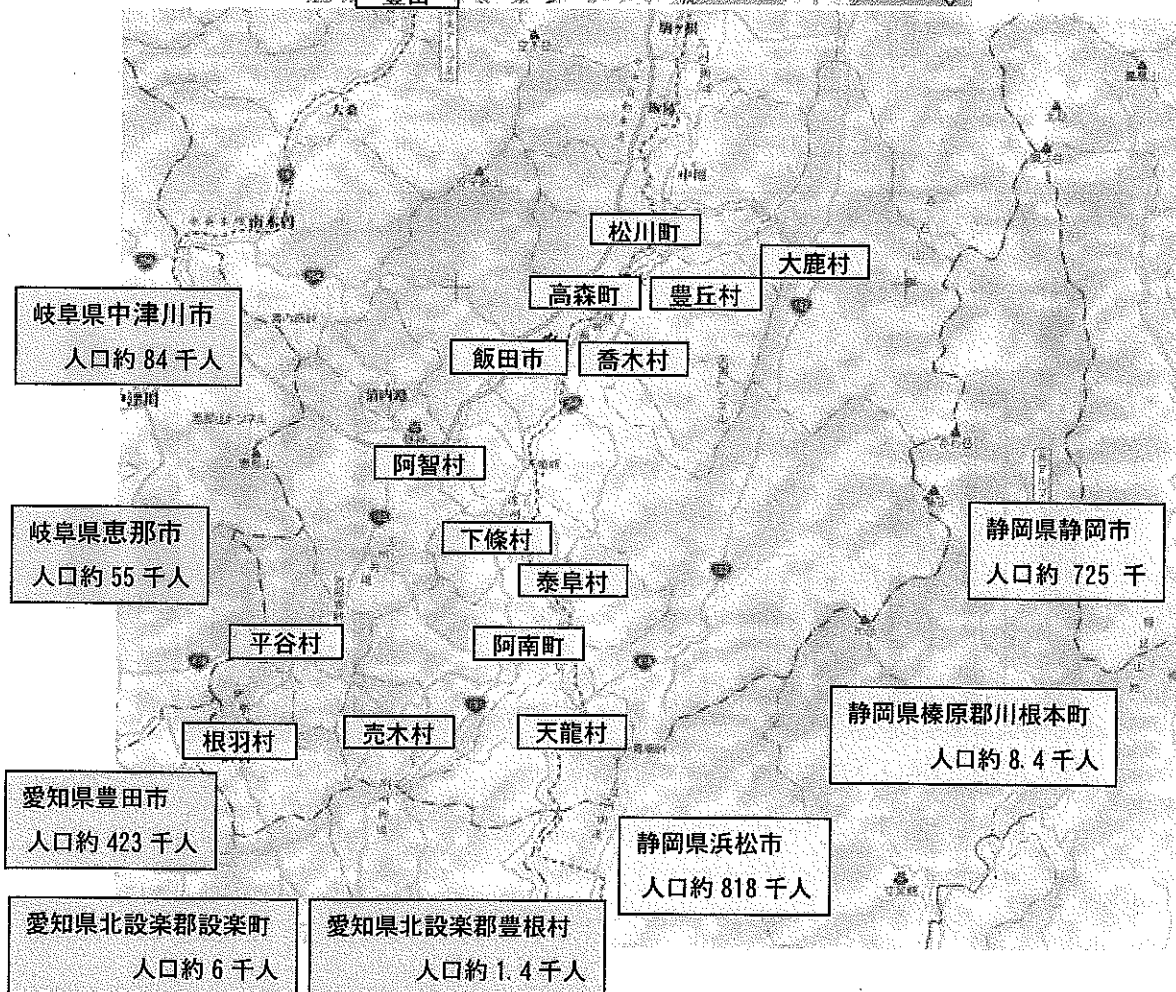
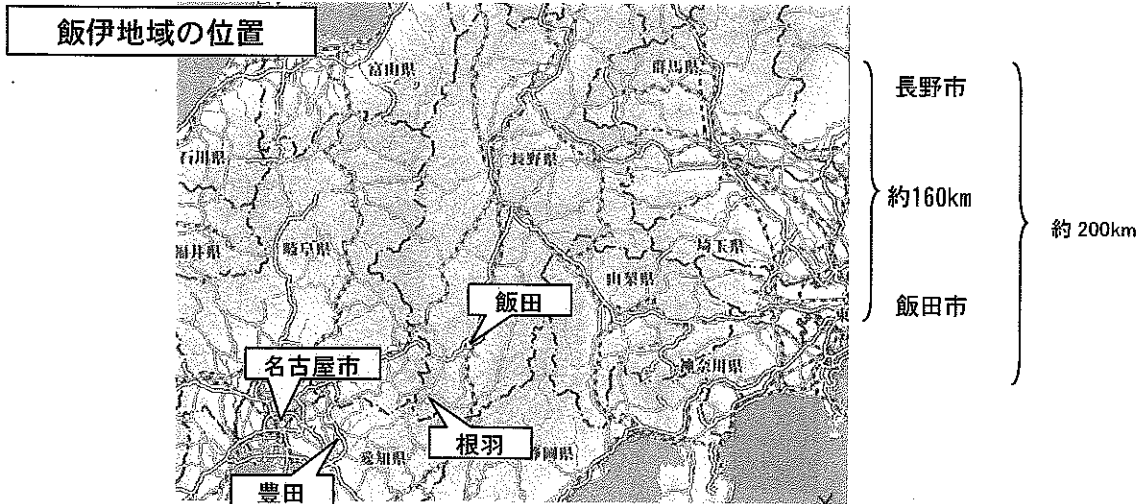
1 ものづくり産業	6
2 観光	8
3 商業・サービス業	10
4 農業	12

飯伊地域の特性（ポテンシャル）

.....	14
-------	----

1 地勢

- 飯伊地域は、長野県の最南端に位置し、岐阜・愛知・静岡の3県と境を接し、1市3町10村で構成されている。
- 面積は1,929km²で大阪府や香川県より広く、その約86%を森林が占め、耕地はわずか5%程度となっている。
- 県庁からの距離は、飯田市で約160km、県境の根羽村までは200kmを超える。
- 東側を南アルプス、西側を中央アルプスに囲まれた盆地で、ほぼ中央部を天竜川が北から南へ流れている。中央構造線などの断層が走っており、急傾斜地が多い地形である。

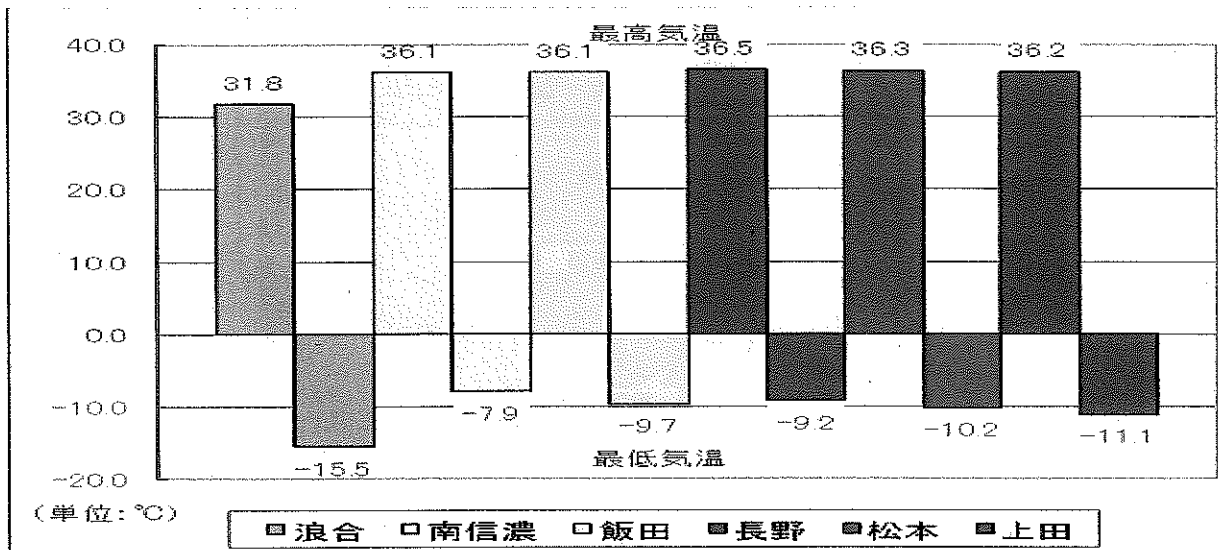


2 気候

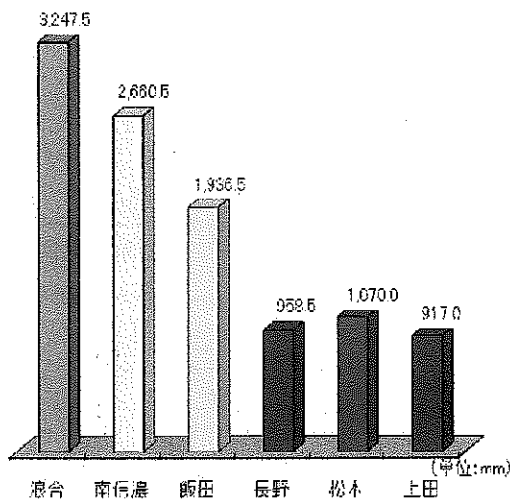
- 太平洋側の気候に属す。(ただし、地形が複雑なため場所によって異なる。)
- 年間降水量は、県内の他の地域と比べて多い。(平成22年7月、飯田市南信濃・上村地区で豪雨による床上浸水等の大きな被害が発生)
- 飯田の年間最高・最低気温や年間日照時間は他の地域とほとんど変わらない。このことから、降雨や晴天といった天候のメリハリがはっきりしている地域といえる。

(各気象データは気象庁HP「気象統計情報」を参照)

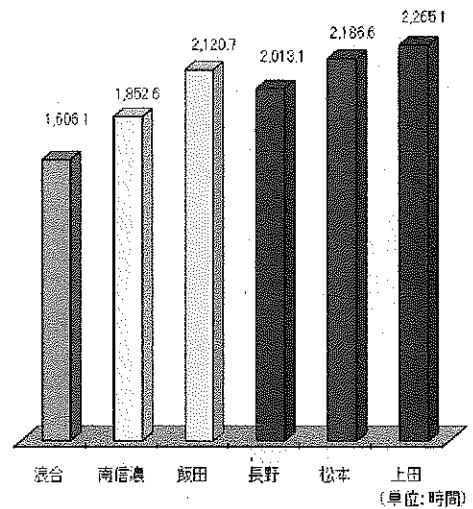
平成23年県内観測所別 年間最高・最低気温



平成23年県内観測所別 年間降水量



平成23年県内観測所別 年間日照時間



人口動向

【現状】

- 飯伊地域の人口は、昭和60年の18万763人をピークに減少局面に入り、平成23年10月1日現在の人口は16万8,334人で、年齢3区分別人口は、年少人口（15歳未満）2万3,317人（13.9%）、生産年齢人口（15歳から64歳）9万4,865人（56.5%）、老年人口（65歳以上）4万9,590人（29.6%）となっている。
- 国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（平成20年12月発表）では、飯伊地域の総人口はこのまま減少を続け、平成47年には14万人を割り込むとしている。
年少人口と生産年齢人口割合は減少する一方、老年人口割合は増加し、平成47年には総人口の約4割を占める見込みとなっている。

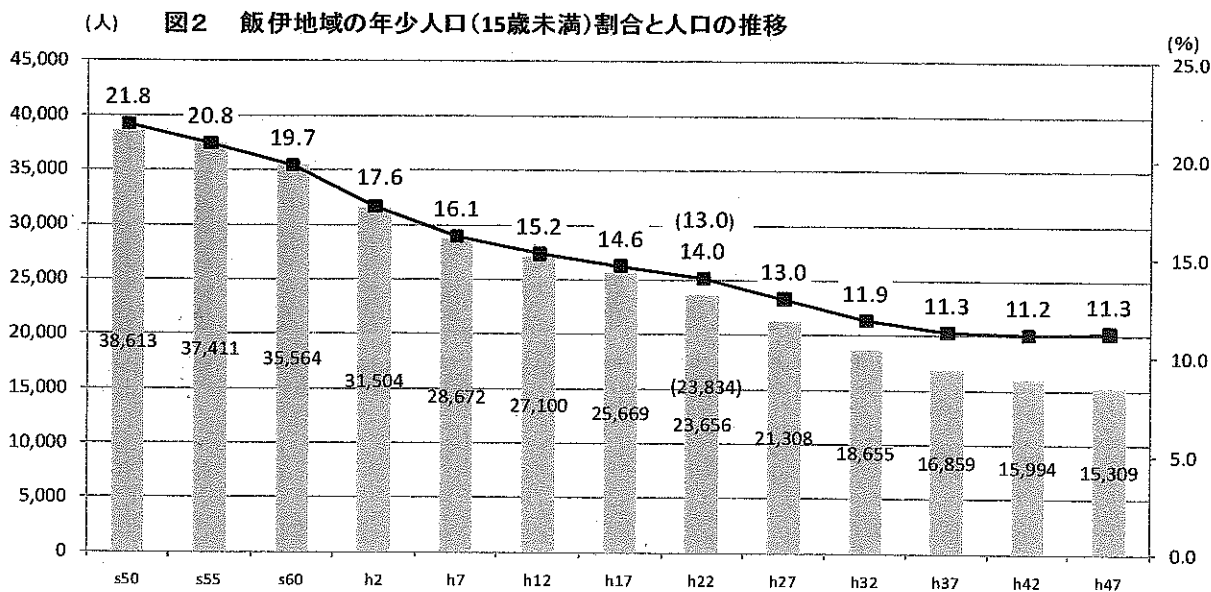
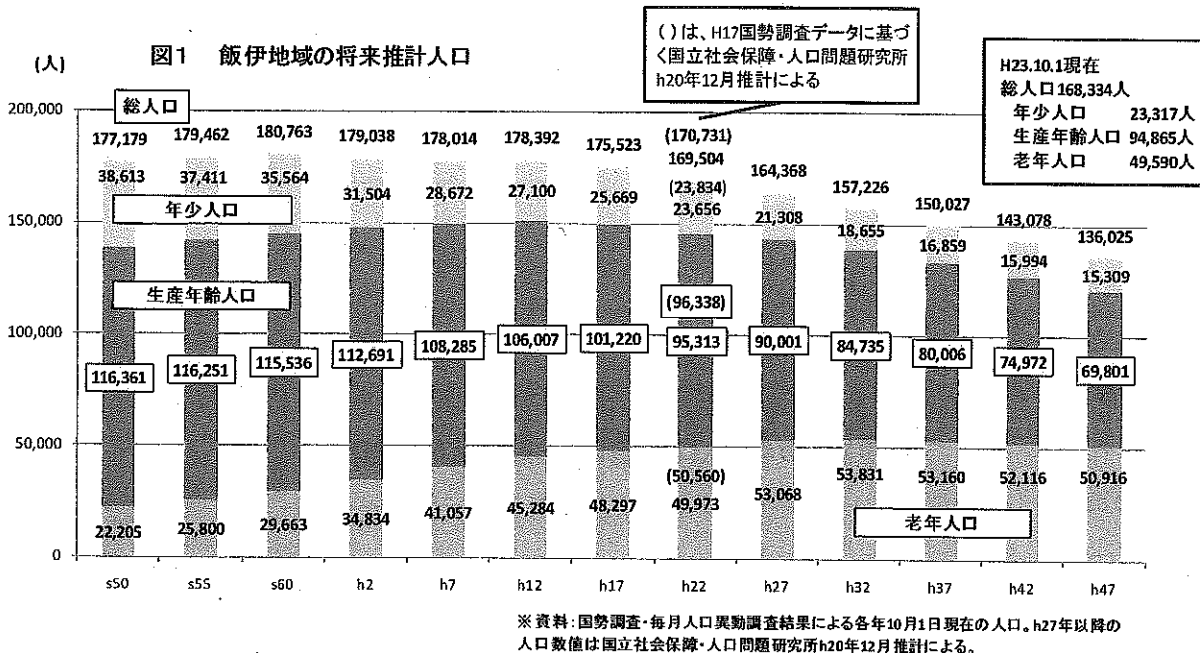


図3 飯伊地域の生産年齢人口(15~64歳)割合と人口の推移

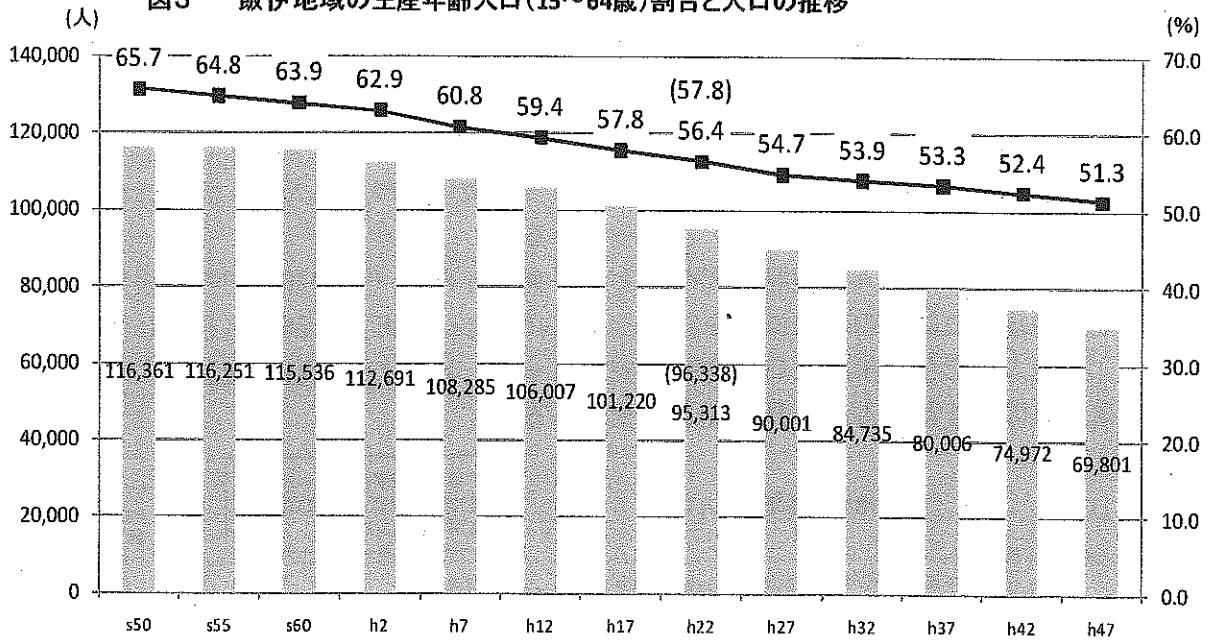


図4 飯伊地域の老年人口(65歳以上)割合と人口の推移

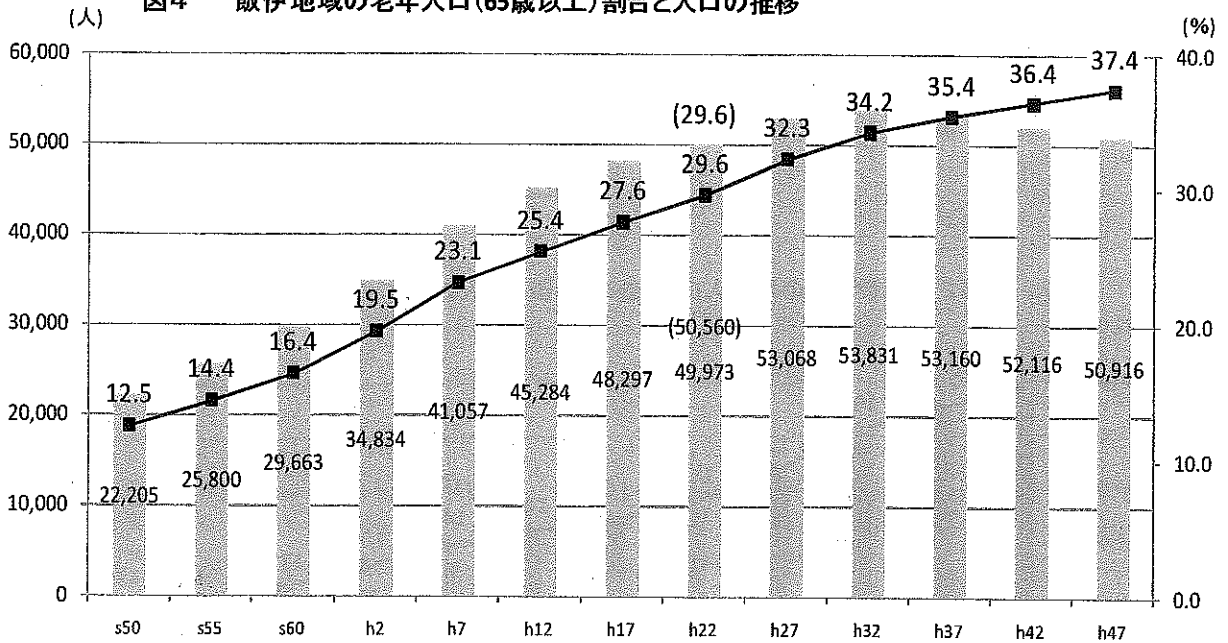
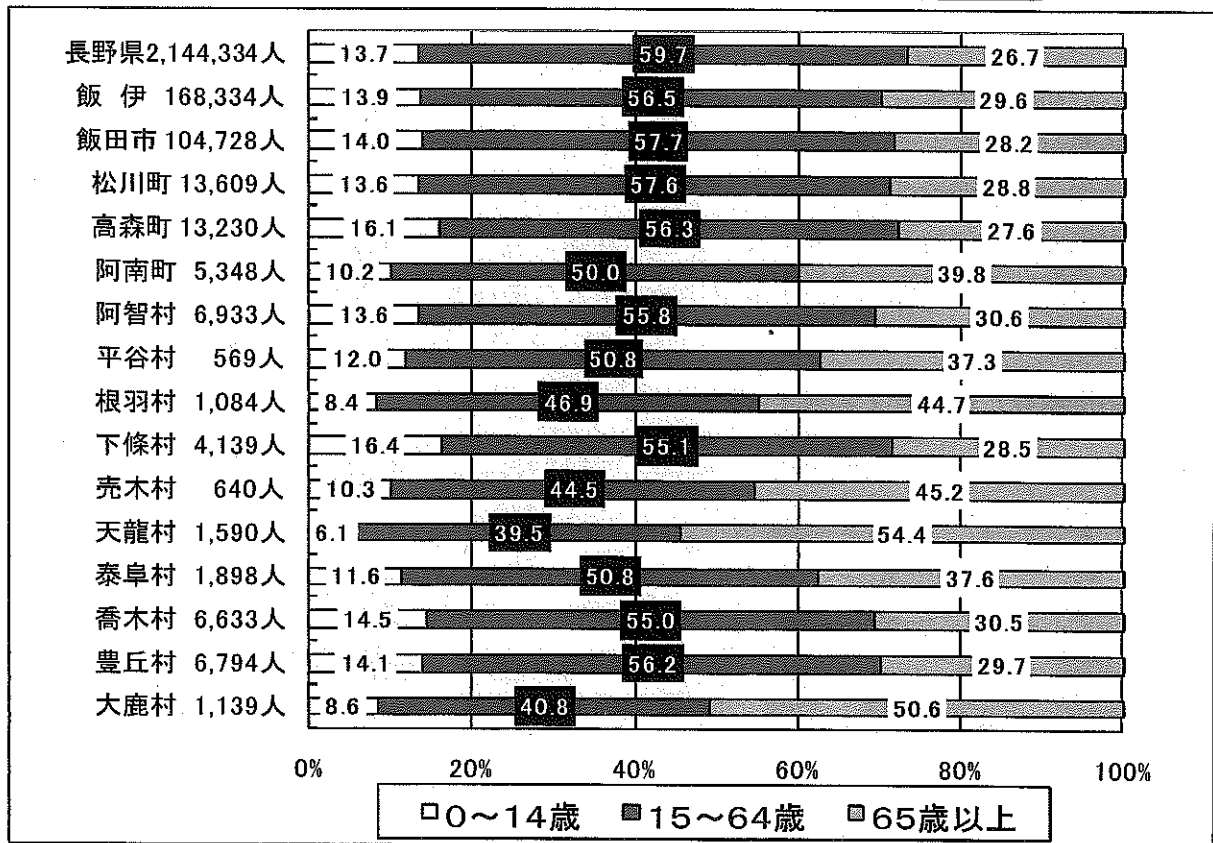


図5 飯伊地域市町村別年齢構成割合別人口 (H23. 10. 1 現在)

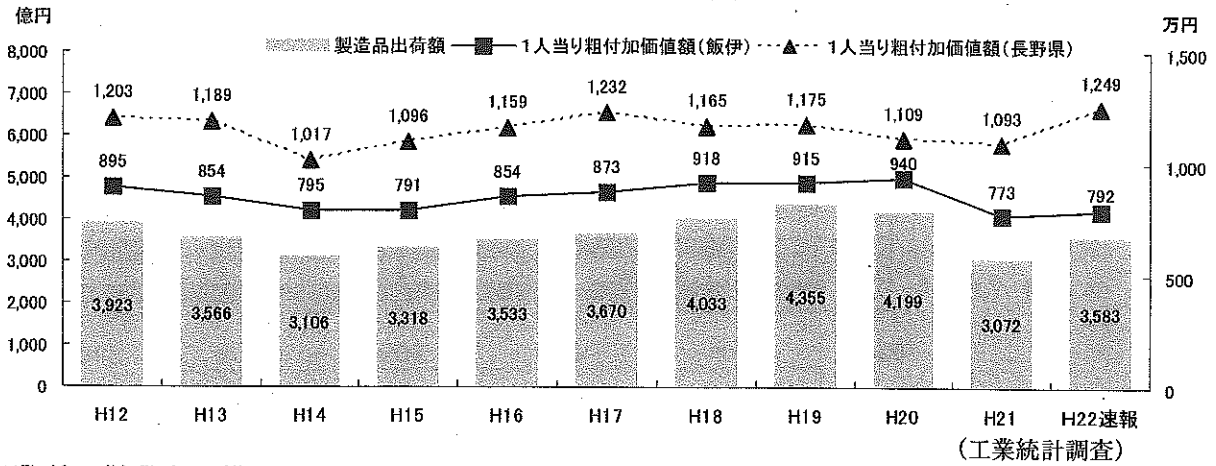


1 ものづくり産業

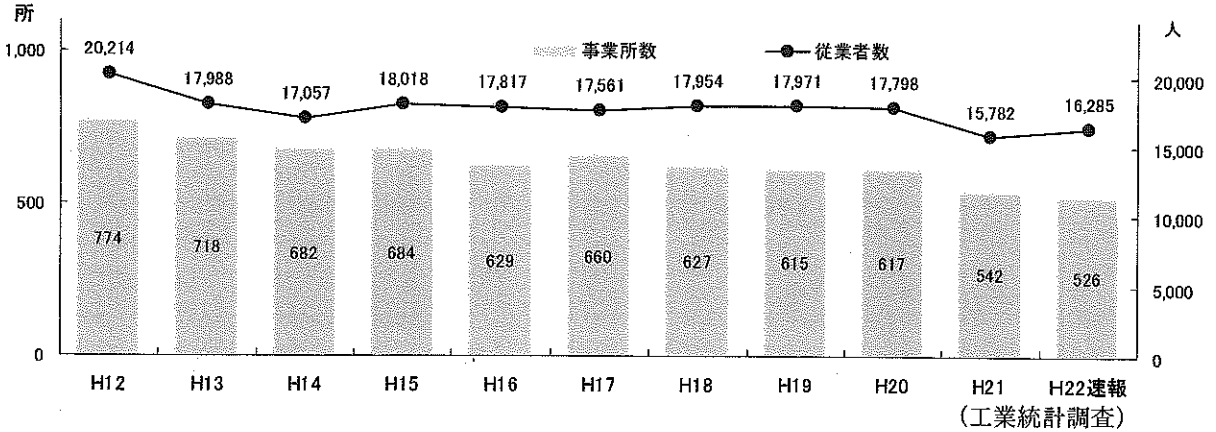
【現状】

- 高い付加価値額を生み出す加工組立型業種のウエイトが全县より小さく、1人当たり粗付加価値額が低くなっている。(792万円、県平均1,249万円)
- 下請型企業が多く、研究開発を行う企業は少ない。
- 取引先の海外生産シフト等により、企業立地は低迷している。
- 地場産業では、生活様式の変化や海外からの安価商品の流入の影響を受け、低迷している状況にある。

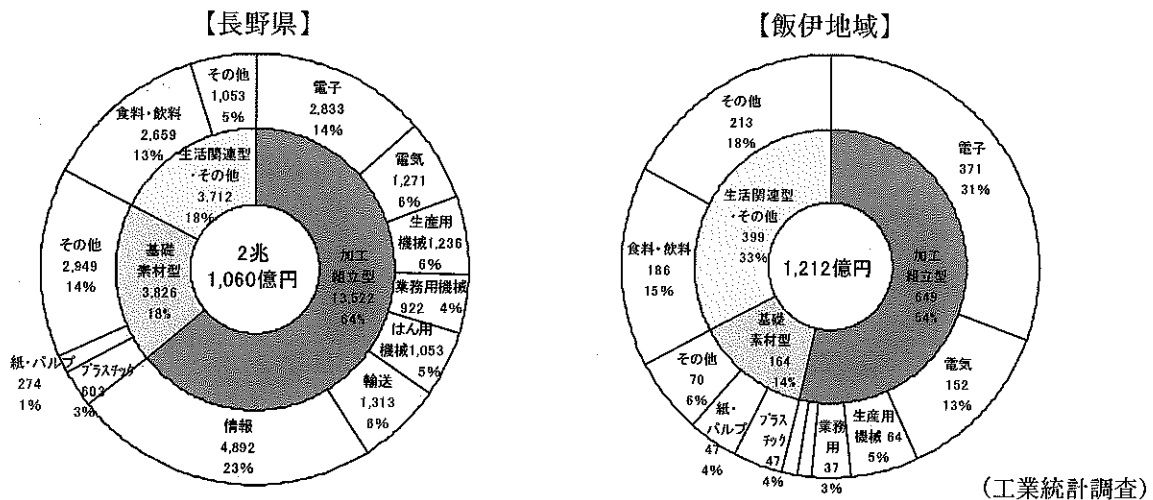
<製造品出荷額等と従業者1人当たりの粗付加価値額の推移>



<事業所と従業者の推移>



<業種別粗付加価値額の状況(平成21年)> (単位:億円)



＜飯伊地域の特色ある地場産業＞

品目	生産額(億円)	国内シェア
水引	35	70%
凍豆腐	60	60%
半生菓子	80	40%
野沢菜漬	40	30%

＜飯伊地域の「ものづくり」の国内シェア＞

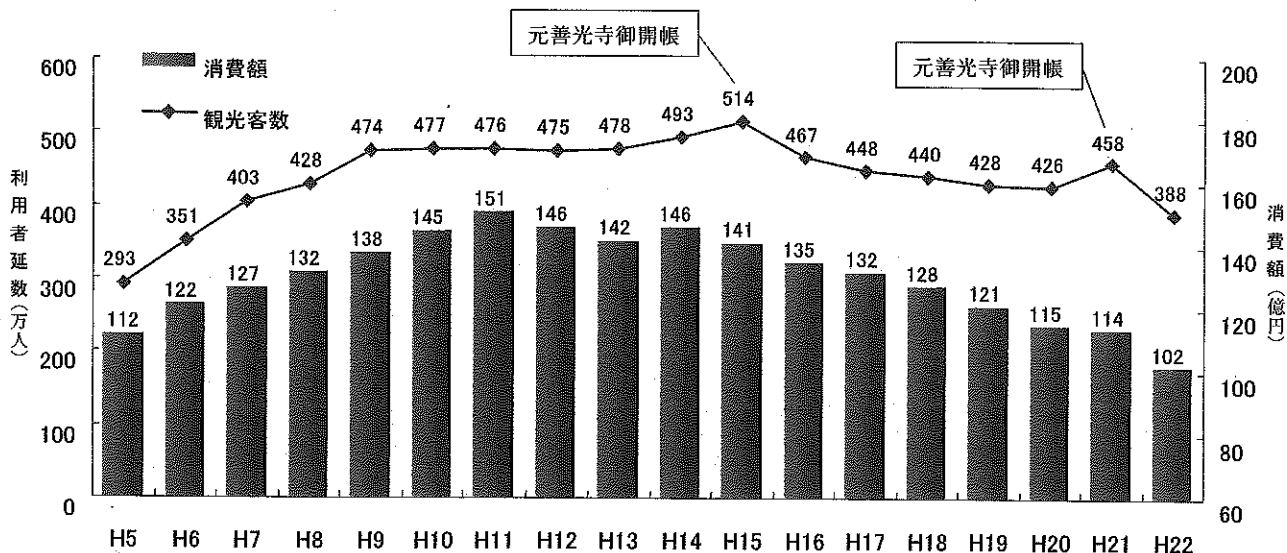
主な品目	国内シェア
ハイブリット車用角度センサ	90% (世界30%)
パチスロ用回転ユニット	80%
液晶ディスプレイ用基板ガラス切断機	70%
コンビニ用ゴミ箱	70%
エンコーダ用スリットガラス板	60%
半導体製造装置で使用されるレンズ	60%
鉄道用遮断機 (FRP)	60%
果実用袋	50%
家庭用換気扇	30%
電動パワーステアリング制御システム	10%

2 観光

【現状】

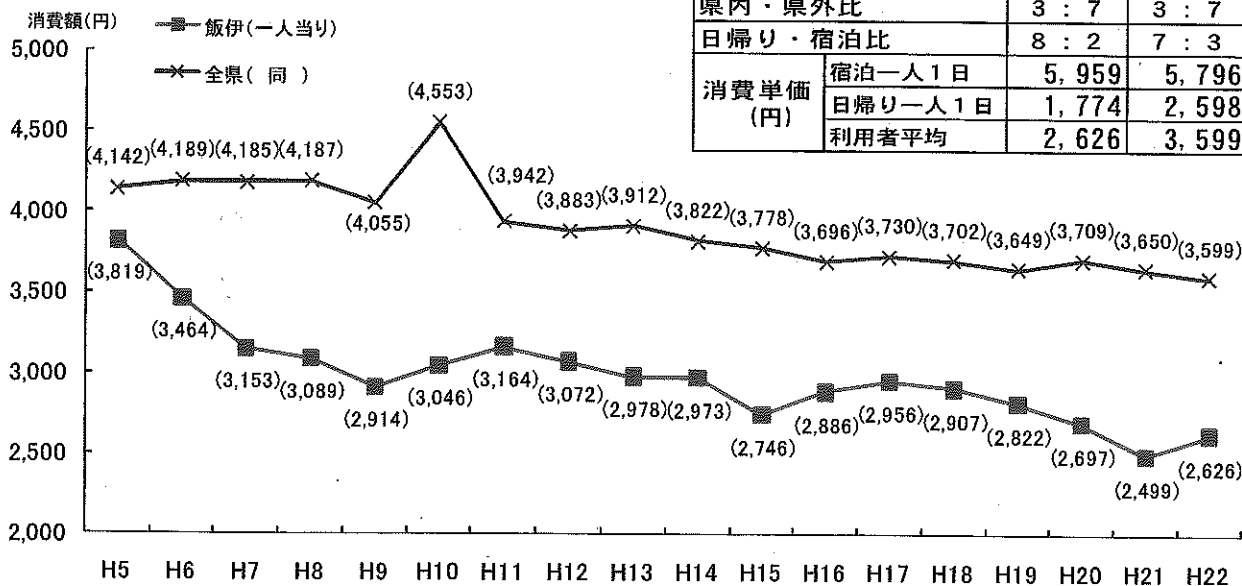
- 飯伊地域は、中京圏・東海圏を中心とした県外客が約7割となっている。
- 温泉、伝統芸能、くだもの狩り体験など多様な観光資源を有する小規模分散型の観光規模となっている。
- 観光地利用者数、観光消費額は個人消費の低迷から減少傾向にある。
- 観光消費額については、昼神温泉の占める割合が4割強と突出している。
- 全県と比較して日帰り客単価が小さく、宿泊客の割合も小さいことから、一人当たりの消費額は少ない。
- 都市農村交流は県下の35%を飯伊地域が占めている。
- H22の信州DCを契機に民間を中心とする南信州DCプロジェクト会議が発足し、南信州観光連携プロジェクト会議に発展して地域独自の誘客事業に取り組んでいる。

＜観光客、消費額と消費単価の推移＞



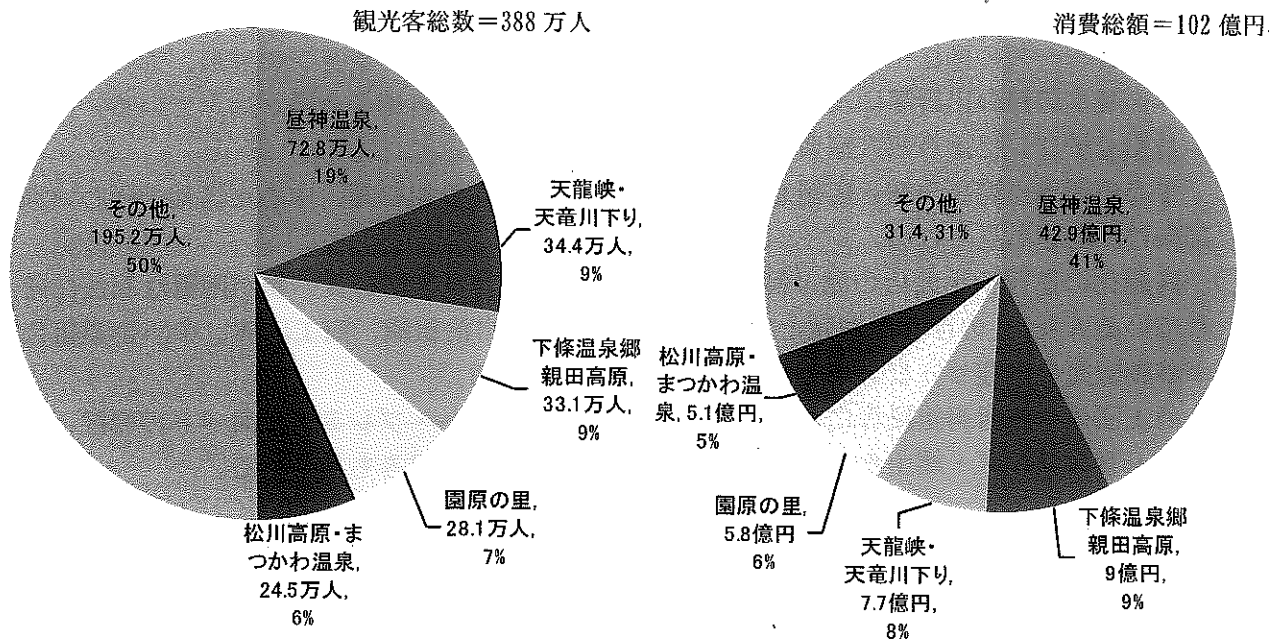
(観光地利用者統計)

平成22年		飯伊	全県
県内・県外比		3 : 7	3 : 7
日帰り・宿泊比		8 : 2	7 : 3
消費単価 (円)	宿泊一人1日	5,959	5,796
	日帰り一人1日	1,774	2,598
	利用者平均	2,626	3,599



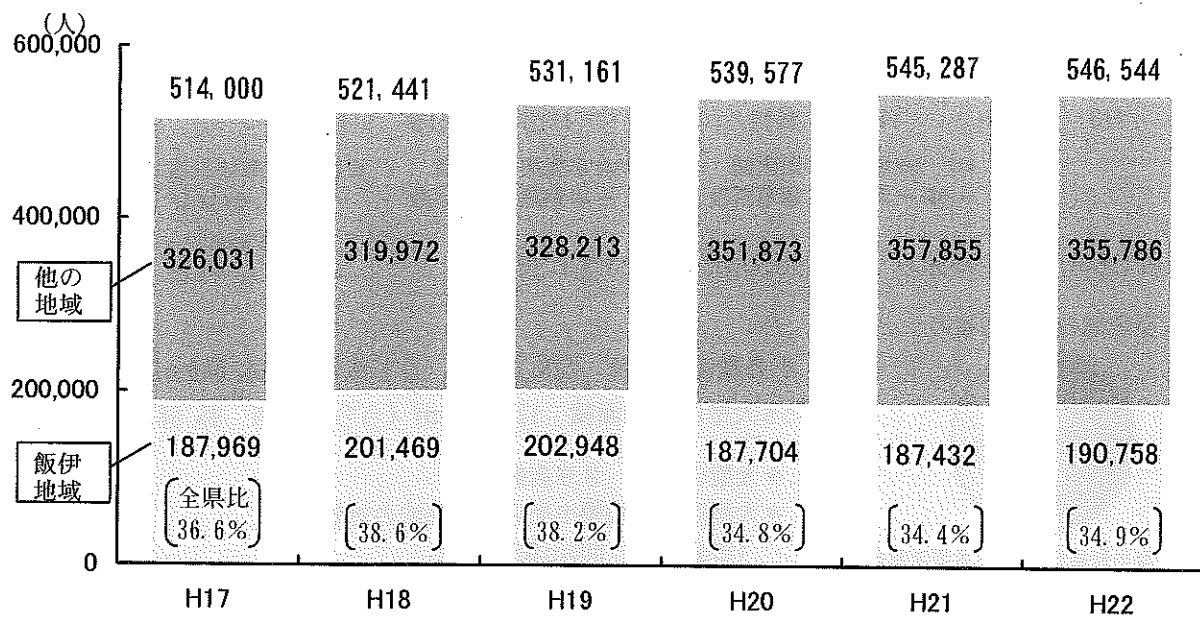
平成 22 年観光客数 TOP5

平成 22 年観光消費額 TOP5



(観光地利用者統計)

<都市農村交流参加者の推移>



※ 都市農村交流活動：農業や農村について「体験」、「収穫」、「学ぶ」行為。

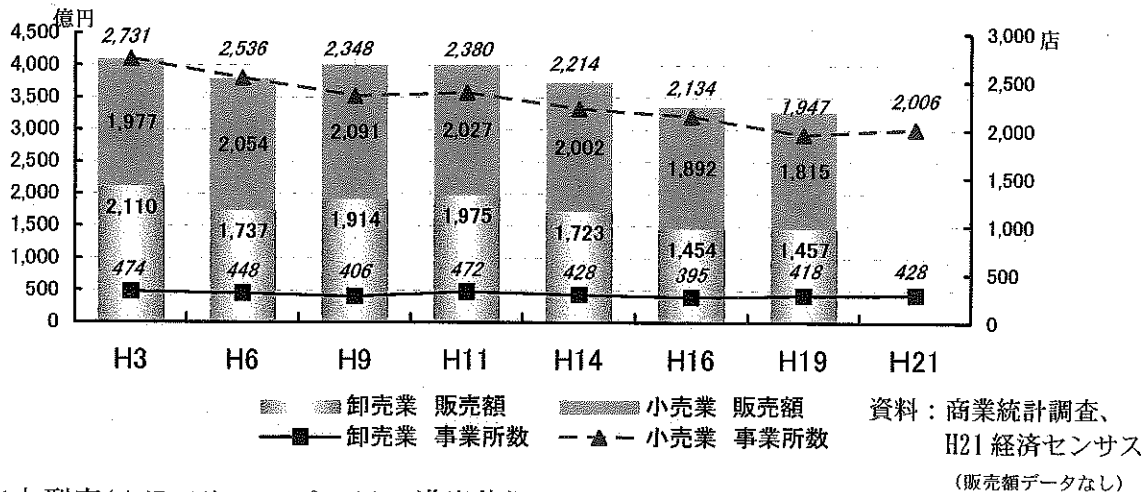
(都市農村活動実施状況調査)

3 商業・サービス業

【現状】

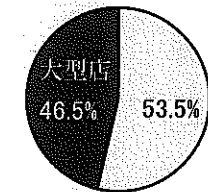
- 消費者ニーズの多様化・生活スタイルの変化、モータリゼーションの進展、郊外型大型店や外部資本店舗の出店等により、中心市街地の空洞化、商店街の衰退が進んでいる。
- 長引くデフレにより個人消費は低迷している。
- 中心市街地再開発や空き店舗を活用した創業支援に取り組む等、中心市街地の賑わい創出に向けた動きも見られる。
- 高齢化の進行や小売店の減少等により、「買い物弱者（日常の買い物が困難な状況に置かれている人々）」の存在が問題となっている中、地域自治組織、商工団体、中小企業組合等が移動販売や送迎サービス等を実施する動きが見られる。
- 商工団体や商店街組織等による一店逸品運動、ポイント・プレミアムカードの発行、ご当地丼・B級グルメ・郷土食の開発や掘り起こしなどの取り組みも見られる。

＜商品販売額、事業所数の推移＞



＜大型店(売場面積 1000㎡以上)の進出状況＞ H23.3.31 現在

大型店舗の売場面積のシェア



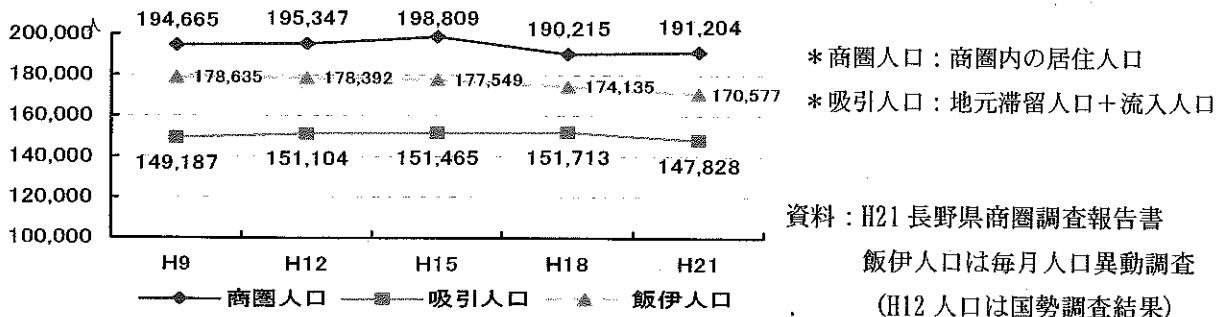
□ 小売業売場面積(大型店舗を除く)
■ 大型店 店舗面積

小売業売場面積 239,240㎡ (うち飯田市 168,088㎡ 70.3%)
うち大型店店舗面積 127,992㎡ (うち飯田市 95,363㎡ 74.5%)

- * 大型店舗数 39店舗
- * 大型店：大規模小売店舗立地法の対象店舗 (店舗面積1,000㎡超の店舗)

* 小売業売場面積：平成19年商業統計調査から産業政策課にて推計

＜商圈人口＞

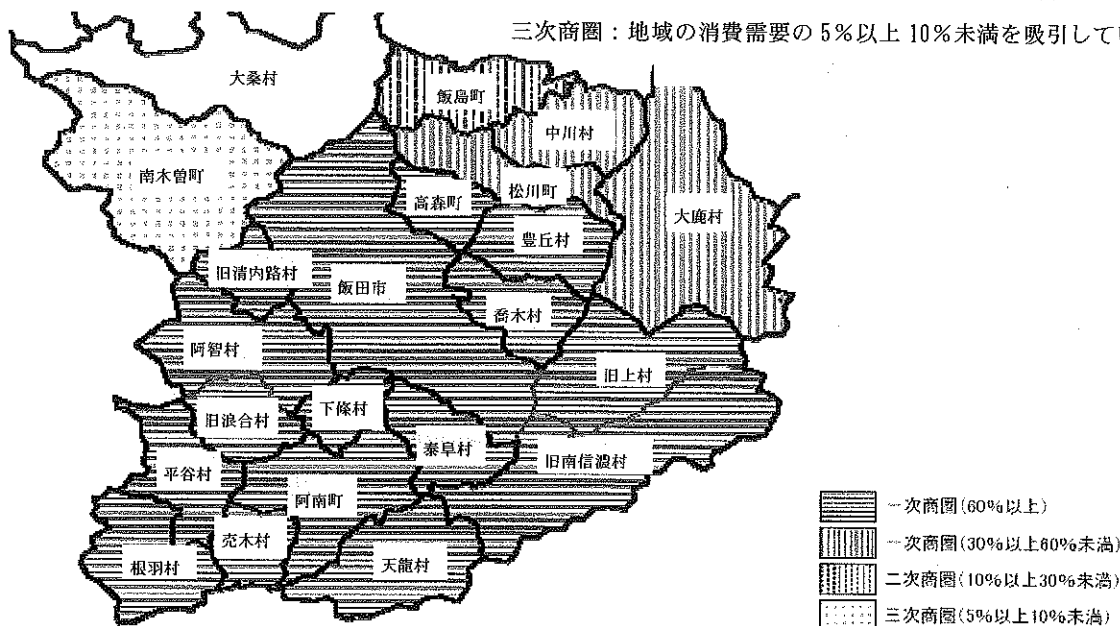


飯田市（合併前）商圏

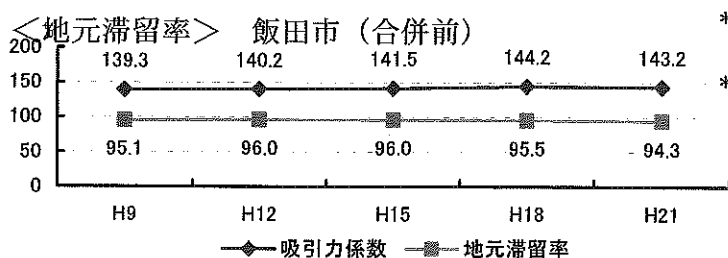
一次商圏：地域の消費需要の30%以上を吸引している地域

二次商圏：地域の消費需要の10%以上30%未満を吸引している地域

三次商圏：地域の消費需要の5%以上10%未満を吸引している地域



- 商圏人口は191,204人、商圏内には上伊那郡南部と木曾郡の一部が含まれる。
 - 商圏人口では県内6位（長野市（合併前）、松本市（合併前）、上田市（合併前）、佐久市（合併前）、諏訪市に次ぐ）
- 資料：H21 長野県商圏調査報告書



* 地元滞留率：居住する地元市町村内で主に買い物をする世帯の割合
 * 吸引力係数：(吸引人口÷居住人口) × 100
 居住人口に対する吸引人口の百分比、数値が大きいほど地元滞留率並びに他市町村からの流入人口が高いことを示す

- 飯田市（合併前）の地元滞留率は94.3%で県内2位（長野市（合併前）に次ぐ）、吸引力係数は143.2%で県内5位（佐久市（合併前）、中野市（合併前）、伊那市（合併前）、松本市（合併前）に次ぐ）

市町村別地元滞留率

市町村名	品目	衣料品	身の回り品	文化品	飲食品	日用品	その他(贈答品)	合計
飯田市(合併前)		93.6	86.6	96.7	95.9	99.2	93.4	94.3
松川町		23.1	3.3	5.5	65.0	11.3	25.8	17.6
高森町		21.1	25.0	18.7	70.0	57.4	34.8	31.1
阿南町		1.2	4.3	2.0	73.0	33.3	23.5	15.1
清内路村(阿智村)					14.3	7.1		2.3
阿智村(合併前)		7.7	2.2	11.5	74.2	25.8	6.7	17.1
浪合村(阿智村)								
平谷村					12.5			1.4
根羽村					41.7	16.7	16.7	7.3
下條村		3.5	5.8	6.3	30.4	7.0	3.7	7.9
売木村					18.8			2.0
天龍村								
泰阜村					20.0			2.1
橋木村					51.9	18.0	8.0	8.1
豊丘村			8.0	3.2	50.0	11.1		8.8
大鹿村					14.3	8.3		2.6
上村(飯田市)								
南信濃村(飯田市)		6.7	5.6	2.9	69.2	38.5		15.7

* 空欄の品目は、他市町村で買物している。

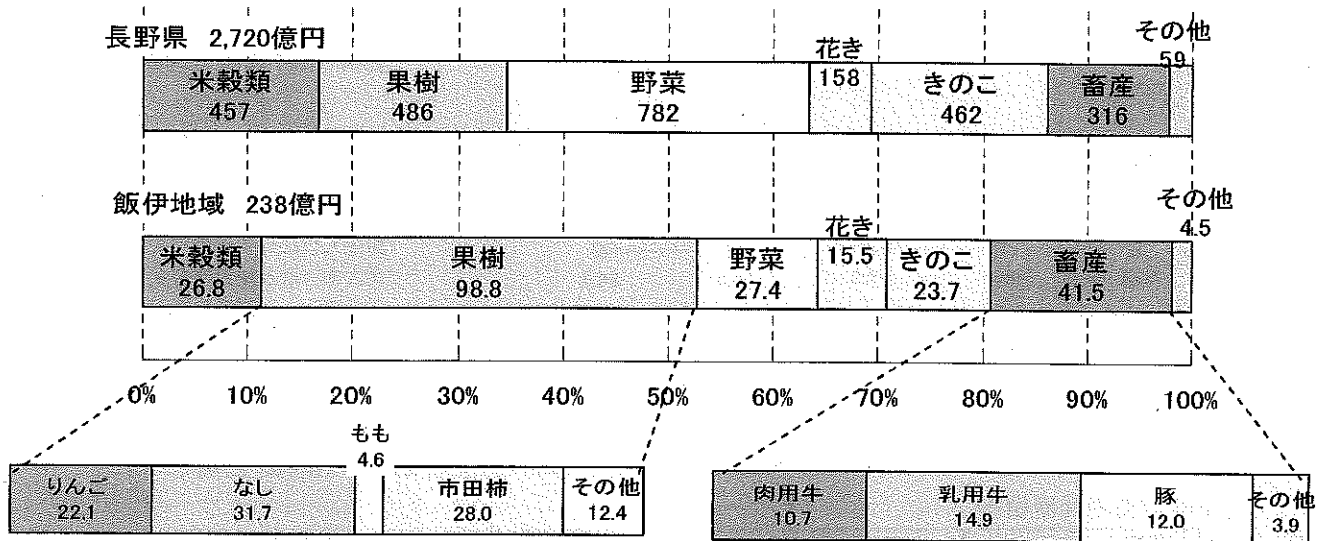
資料：H21 長野県商圏調査報告書

4 農業

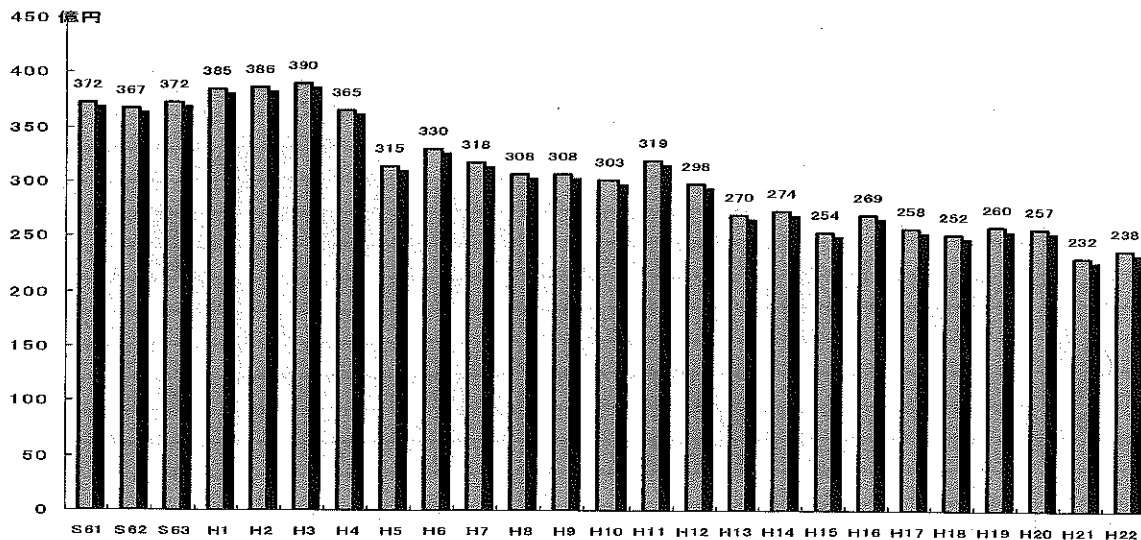
【現状】

- 山間傾斜地が多く、1戸当たりの耕地面積が狭いため、小規模多品目の多角化経営が中心で、水稲など土地利用型農業の規模拡大が進まない。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足等により、担い手が減少し農業生産力の低下が懸念されている。
- 平成18年に市田柿が地域団体商標として登録されるほか、「信州の伝統野菜」や竜峡小梅、茶、ゆず等の特色ある地域農産物が生産されている。
- 酪農、肉牛、養豚など畜産業は、平成18年以降飼料価格が高騰し、肉畜の収益性が低下している。
- 農産物加工施設や直売所、観光農業や農家民宿への取組みが盛んである。
- 飯伊地域の農業用水路は674kmにおよび、昭和20年代から40年代に整備されたものが多く、老朽化が進んでいる。また、急峻な地形、脆い地質、多雨といった自然条件や東海地震防災対策強化地域に指定された市町村が多く、ため池の改修などの防災対策が求められている。

＜農業産出額の構成割合＞（平成22年下伊那地方事務所推計値）（単位：億円）

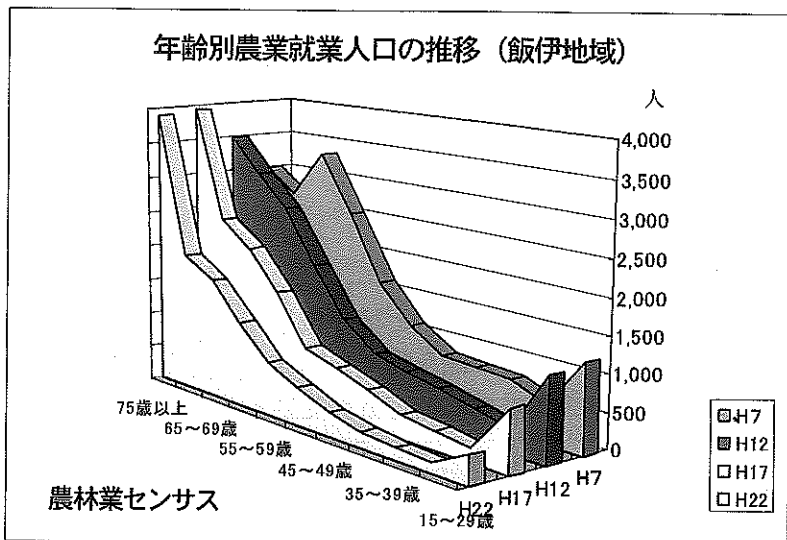


＜農業産出額（下伊那地方事務所推計値）の推移＞



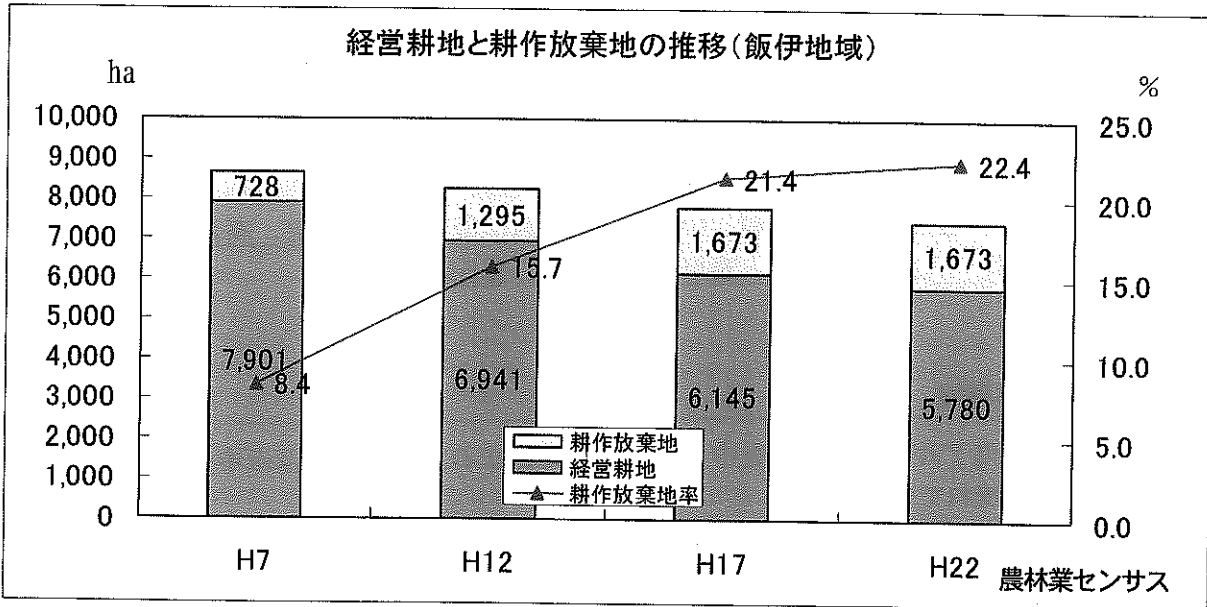
注) H22 は暫定値

年齢別農業就業人口の推移（飯伊地域）



年	総農業就業人口 人	65歳以上の比率 %
H7	18,199	49.1
H12	16,046	56.4
H17	13,651	61.4
H22	11,244	66.7

経営耕地と耕作放棄地の推移（飯伊地域）



飯伊地域の特性（ポテンシャル）

※（ ）内は下伊那地域の長野県10広域内での順位、【 】内は長野県のデータと全国順位
< >内は出典

1 地理的条件

- 長野県の最南端に位置し、岐阜・愛知・静岡の3県と境を接している。県庁からの距離は、飯田市で約160km、県境の根羽村までは200kmを超えている。
- 管内の11市町村が、東海地震防災対策強化地域に指定されている。

データ等

①主要都市までの距離

東京265km、新潟365km、富山301km、甲府147km、岐阜140km、静岡214km、浜松135km、名古屋119km、豊橋130km、京都243km、大阪284km <下伊那地方事務所調べ>

②東海地震に係る地震防災対策強化地域長野県内指定市町村

1市3町7村 計11市町村（県内 6市8町11村 計25市町村）

岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村、伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村、飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、下條村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村

2 豊かな自然環境

- 東側を南アルプス、西側を中央アルプスに囲まれた盆地で、ほぼ中央部を天竜川が北から南へ流れています。
- 面積は1,929km²で大阪府や香川県より広く、その約86%が森林で占められている。
- 中央構造線などの断層が走っているとともに急傾斜地が多い地形となっている。

データ等

- ①総面積 1,929.19km²（第1位）【長野県 13,562.23km²（第4位）】
<平成22年、全国市町村要覧>
- ②森林面積 166,975ha（第1位）【長野県 1,059,394ha（第3位）】
<平成23年、長野県民有林の現況>
- ③自然公園面積 27,333ha（第7位）【長野県 278,522ha（第3位）】
<平成22年、環境省>
- ③3,000m峰の数 4座（第2位）【長野県 15座（第1位）】
<平成21年、国土地理院>
- ④天竜川 流路延長 213km（全国第9位）
流域面積 5,090km²（全国第12位）

3 次世代産業を見据えたものづくり

- 水引や凍豆腐など古くからの地場産業が発展してきた地域であるとともに、自動車部品などの精密加工技術が集積し、その技術を活かす飯田航空宇宙プロジェクトなど次世代産業を見据えた取組みが進んでいる。
- 地域の業界や市町村が協力して地域の製造事業者が技術向上、新技術・新製品の開発を図るために利用できる工業技術センター、飯田EMCセンターを整備し、試験・検査・分析のほか、製品の品質保証といった新たな時代のニーズに対応している。

データ等

①飯田航空宇宙プロジェクト

- ・ 設立：平成18年
- ・ 参加企業数：29社
- ・ 活動内容：航空機部品の共同受注や展示会出展、国内・海外へのPRなどを、4つワーキングチームを組織して実施している。
 - ア 共同受注チーム、イ QMS（品質保証システム）チーム
 - ウ 加工（難削・難加工）チーム、エ ソフト（5軸加工ソフト）チーム

②工業技術センター

- ・ 設立：昭和62年2月
- ・ 事業内容：精密測定、成分分析、測定機器・計器の校正、測定機器貸付等

③飯田EMCセンター

- ・ 設立：平成11年4月
- ・ 事業内容：電磁ノイズ測定、電磁波による誤作動試験等

4 健康長寿

- 長野県の平均寿命は、全国的にトップクラスであるとともに、高齢者の就業率は全国で最も高く、下伊那地域は其中でさらにトップクラスとなっている。
- 老人医療費は、全国的に最も少ないクラスに類している。

データ等

①平均寿命 男性 79.84歳（第1位）、女性 86.48歳（第5位）

＜平成17年、都道府県別生命表＞

②一人当たりの老人医療費 730,373円（第6位）【長野県 745,152円（第45位）】

＜平成21年度、後期高齢者医療事業年報＞

③高齢者就業率 33.3%（第2位）【長野県 29.9%（第1位）】

＜平成17年、国勢調査＞

④医師数（10万人あたり） 177.6人（第5位）【長野県 213.9人（第33位）】

＜平成22年 医師・歯科医師・薬剤師調査＞

5 観光の潜在力

- 自然が刻む暮らしの魅力
(天竜川、温泉、里山、農業体験、自然体験など)
- 堆積し成熟した時間の魅力
(御幣餅、和菓子、市田柿、伝統野菜、酒、JR飯田線など)
- 共同体の魅力
(農村歌舞伎、人形浄瑠璃、霜月まつりなど)

データ等

- ①都市農村交流者 190,758人 (県全体 546,544人、全県シェア35%)
- ②体験学習旅行者 23,556人
- ③半生菓子 生産額 80億円 (全国シェア 40%)
- ④市田柿 生産量 2,010 t (干し柿類では全国1位)
※ H18.11地域団体商標に登録
- ⑤ジビエ料理の開発 大鹿村、根羽村、飯田市ほか
- ⑥指定重要民俗文化財 6件 (県全体 14件、全県シェア42.9%)
- ⑦選択無形民俗文化財 12件 (県全体 27件、全県シェア44.4%)

6 農林業の特性

- 山間傾斜地が多く、生活・生産基盤整備等は遅れているものの、温暖な気候に恵まれ、標高差等の地勢を活用した果樹、畜産、野菜等の多様な農業が営まれている。
- 農産物加工品、畜産、果樹の生産額の県内生産額に占める割合が高い。

データ等

- 総農家数 11,689戸 (県 117,316戸)
- 販売農家数 6,289戸 (県 62,076戸)
- 農家の高齢化率(65歳以上比率) 66.7% (県 66.9%)
- 耕作放棄地率 22.4% (県 18.7%)
<以上 2010年 農林業センサス>
- 1戸当たり耕地面積 72 a (県 95 a)
<以上 平成22年 農林水産統計 耕地面積>
- 農業産出額 238億円 (県 2,720億円)
(県全体に占める割合) 果樹 (16.7%)
畜産 (13.0%)
野菜 (3.5%)
<以上 平成22年 県農政部、下伊那地方事務所推計値(暫定値)>
- 伝統野菜認定数 18種類 (県 62種類)
<信州伝統野菜認定委員会による認定数>
- 農産物直売所数 56ヶ所 (県 573ヶ所)
<平成22年県農政部調べ>
- ヒノキ林(人工林)の面積 25,859ha (第1位)【長野県 84,000ha (第13位)】
<長野県民有林の現況H23.4><林野庁業務資料H19.3>

■ 猟友会員数	776人 (第1位) 【長野県 4,642人 (第2位)】 <長野県猟友会>
■ ニホンジカ捕獲頭数	5,353頭 (第1位) 【長野県 18,708頭 (第5位)】 <平成21年鳥獣統計 (暫定値) >
■ マツタケ生産量	22.6t (第1位) 【長野県 85.1t (第1位)】
■ 乾しいたけ生産量	5.2t (第1位) 【長野県 8.4t (第27位)】 <平成22年林野庁統計調査 (特用林産物生産統計調査) >